

2017年度
(平成29年度)

事業報告書

目次

I	2017年度事業報告	
	1. 国内における平和構築活動	2
	2. 海外における平和構築活動	13
	3. 財務体質の強化	16
II	組織	17
III	会議	21



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟

2017年度 事業報告にあたって

民間ユネスコ運動発祥70周年という記念すべき年にあたり、2017年度、公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟は、国内外において、多くの企業、団体、個人等のご理解とご協力を得て、これまで以上にさまざまな活動を実施することができました。

2017年度の総会において、「民間ユネスコ運動70周年 ビジョン・ミッション 2017年～2026年」のビジョンを「『Peace for Tomorrow 広げよう平和の心』～UNESCO（国際連合教育科学文化機関）憲章の理念に基づき、国内外で志を同じくする人々や団体と連携し、平和な世界の実現を目指し、共に学び、行動する民間ユネスコ運動へ」とする承認を得ました。

また、ミッションには1.「平和な世界の構築」、2.「持続可能な社会の推進」を掲げ、国連が2030年までに達成すべきとして掲げた『持続可能な開発目標 SDGs = Sustainable Development Goals』を踏まえて、5つの重点目標、11のアクションプランを策定しました。

今後、民間ユネスコ運動は、平和無くして持続可能な開発は達成できず、また、持続可能な開発なくして平和は実現不可能であることを常に意識し、特に『教育分野』にこれまで以上に軸足を置いて活動を展開していくことになりました。

混迷と不安定さを増す国内外の状況下において、UNESCO（国際連合教育科学文化機関）憲章の理念は色褪せるどころか、ますます重要性を増していると言えます。

2017年度、公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟が、『教育』を通し、社会課題解決のために行った具体的な活動について、ここに報告いたします。

※本事業報告書の企業名、団体名は2017年度当時のものですので、予めご了承ください。

I 2017年度事業報告

1. 国内における平和構築活動

(1) 普及実践活動

～民間ユネスコ運動発祥 70 周年記念～

① 第 73 回日本ユネスコ運動全国大会 in 仙台

全国のユネスコ会員が一堂に会し、その年に最もふさわしいテーマについて研鑽を積み、民間ユネスコ運動のメッセージを社会に発信することを目的に、2017 年度は宮城県ユネスコ連絡協議会、公益社団法人仙台ユネスコ協会とともに、民間ユネスコ運動発祥の地である宮城県仙台市で開催し、約 1,500 人が参加した。

ノーベル平和賞受賞のラジェンドラ・クマール・パチャウリ氏による特別講演や、未来の民間ユネスコ運動を担う青年や高校生によるステージやパネルディスカッションが行われた。また、大会の最後には、これからの民間ユネスコ運動の活動指針となる「民間ユネスコ運動 70 周年ビジョン」が発表され、これまでの民間ユネスコ運動を振り返るとともに、次世代に運動を引き継いでいく決意を新たにされた大会となった。

大会テーマ：発祥の地 仙台から世界へ UNESCO 憲章の理念を未来に

プログラム：特別講演 ラジェンドラ・クマール・パチャウリ

「気候変動に挑戦する知と勇気をもつ若者を育てよう」

青年部がいざなう現在・過去・未来のユネスコ探検ツアー

パネルディスカッション 「高校生が届けるメッセージ」

映像と演奏による講演 桑山紀彦「地球のステージ」

パネルディスカッション 「ESD・地球の平和を守ろう」

70 周年記念演奏 UNESCO 平和芸術家 二村英仁

日程：2017 年 7 月 15 日（土）～16 日（日）

会場：仙台国際センター（宮城県仙台市）

主催：公益社団法人日本ユネスコ協会連盟、宮城県ユネスコ連絡協議会、
公益社団法人仙台ユネスコ協会

後援：外務省、文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、
宮城県、宮城県教育委員会、仙台市、仙台市教育委員会 など

協力：株式会社ジェイアール東日本企画、
富士オフィス&ライフサービス株式会社 など

② ブロック別ユネスコ活動研究会

ユネスコ協会会員の自己研鑽を図り、ユネスコ活動の情報交換や経験交流を通じて、ブロック内におけるユネスコ活動を活性化させることを目的に、会員の拡充を共通テーマとして、下記 9 ブロックで研究会を開催し、合計で約 2,000 人が参加した。

中部東ブロック・ユネスコ活動研究会（神奈川県厚木市）	2017 年 9 月 2 日～3 日
北海道ブロック・ユネスコ活動研究会（北海道厚岸町）	2017 年 10 月 14 日～15 日
関東ブロック・ユネスコ活動研究会（千葉県市川市）	2017 年 10 月 14 日～15 日

近畿ブロック・ユネスコ活動研究会	(和歌山県紀の川市)	2017年10月14日
東北ブロック・ユネスコ活動研究会	(福島県いわき市)	2017年10月21日～22日
中部西ブロック・ユネスコ活動研究会	(三重県伊勢市)	2017年10月28日～29日
中国ブロック・ユネスコ活動研究会	(山口県防府市)	2017年11月18日～19日
四国ブロック・ユネスコ活動研究会	(香川県高松市)	2017年11月18日～19日
九州ブロック・ユネスコ活動研究会	(沖縄県那覇市)	2017年11月25日～26日

③ 民間ユネスコ運動の日、「平和の鐘(かね・おと)を鳴らそう！」キャンペーン

各地ユネスコ協会が主体となって、7月19日の民間ユネスコ運動の日と8月15日を中心に、全国各地でユネスコ活動を広く社会に伝える活動を実施した。恒例となった「平和の鐘(かね・おと)を鳴らそう！」は全国の協会のうち約110のユネスコ協会・クラブが参加し、平和を願い、多彩な活動を展開した。

(2) 青少年活動

① 東日本大震災子ども支援募金

2011年3月に発生した東日本大震災から7年目となった2017年度、引き続き多くの企業、団体、個人のご協力を得て、以下の活動を行った。

A) ユネスコ協会就学支援奨学金

経済状況が悪化した家庭の子どもに、原則として一人あたり月額2万円の返還不要の奨学金を3年間給付する。2017年度は、岩手県陸前高田市、宮城県亘理町、多賀城市、岩沼市、石巻市、気仙沼市、福島県新地町、浪江町、富岡町、大熊町、双葉町で合計593人の生徒に奨学金を給付した。(※東日本大震災による遺児・孤児を除く。)

B) MUFU・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金

三菱UFJフィナンシャル・グループとの協働により、2011年4月に「MUFU・ユネスコ協会 東日本大震災復興育英基金」を設立した。本基金は、震災により遺児・孤児となった子どもたちを対象に、小学校入学時から高校卒業時まで奨学金(開始時に一時金10万円、月額2万円)の給付を行うもので2017年度は、遺児・孤児666人に給付した。また、奨学金の他にも、心豊かな成長プログラムを継続実施した。

C) 力士会とともに被災地の相撲場建設

力士会の協力を得て、福島県会津若松市での相撲場建設を進めた。

D) 第4回 アクサ ユネスコ協会 減災教育プログラム

アクサ生命保険株式会社の協力を得て、及川幸彦プログラム・コーディネーター(東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター主幹研究員)のもと、東日本大震災の経験や教訓を全国の学校防災につなげることを目的に、減災・防災教育に取り組む全国の小・中・高

校を対象にした支援事業を継続実施した。

2017年度は、審査会の審議を得て、応募校から22校を選抜して助成金を支援した。助成校の先生方を対象に実施した「教員研修会」（9月18日～20日）においては、気仙沼市で東日本大震災の教訓を活かした同市の防災教育のカリキュラムや教育実践を視察し、これから求められる防災・減災教育のあり方などを多角的に学び、各地の学校の防災教育の強化につなげた。さらに、助成校がそれぞれの活動の成果を発表する「活動報告会」（2月23日）を都内で実施した。

研修協力：気仙沼市教育委員会、気仙沼市立階上小学校、気仙沼市立階上中学校
特定非営利活動法人 SEEDS Asia

後援：文部科学省

E) 「東日本大震災 教育復興支援レポート2016」の発行

募金により実施した教育復興支援活動の成果を募金者に報告するための、活動報告書を制作・配布した。

② 青少年活動支援

A) 「ユネスコ協会ESDパスポート」プロジェクト

子どもたちが世界や地域社会の課題に目を向け、自らの問題として捉え、考え、自発的に行動することを目的に、ESDパスポートを持った子どもたちが課題解決のために行動するボランティアの参加促進のツールとしてパスポートを発行・配布した。ユネスコ協会・クラブや地域の団体が主催するボランティア活動に参加を奨励し、参加回数に応じてユネスコ協会・クラブから活動認定書を発行し、ボランティア体験発表会等で顕彰した。

2017年度は全国で33の都道府県ユネスコ連絡協議会・ユネスコ協会・クラブの働きかけを通して、新たに2万2,000人強の児童・生徒がパスポートを活用した。

—参加都道府県連・協会・クラブ—

仙台ユネスコ協会、白石ユネスコ協会、いわきユネスコ協会、藤岡地方ユネスコ協会、新宿ユネスコ協会、玉川大学ユネスコクラブ、千葉ユネスコ協会、八街ユネスコ協会、四街道市ユネスコ協会、成田ユネスコ協会、船橋ユネスコ協会、横浜ユネスコ協会、鎌倉ユネスコ協会、甲府ユネスコ協会、磐田ユネスコ協会、富山ユネスコ協会、氷見ユネスコ協会、ふくいユネスコ協会、名古屋ユネスコ協会、豊橋ユネスコ協会、岐阜県ユネスコ協会、大垣ユネスコ協会、京都ユネスコ協会、大阪府ユネスコ連絡協議会、芦屋ユネスコ協会、岡山ユネスコ協会、岩国ユネスコ協会、萩ユネスコ協会、防府ユネスコ協会、徳山ユネスコ協会、徳島ユネスコ協会、新居浜ユネスコ協会、都城ユネスコ協会

B) 青少年ユネスコ活動助成

地域における活動を通じた民間ユネスコ運動の進展を図った。

日時：2017年5月15日（審査会実施日）

内容：59のユネスコ協会・クラブ（62事業）の申請に対し、56事業に助成金を拠出し、地域における活動を通じた民間ユネスコ運動の進展を図った。

申請対象分野と助成額：

- 分野1 「わたしの町のたからもの」絵画展事業等／助成額：1協会あたり上限5万円
分野2 ユネスコ協会・クラブに所属する青年が中心となつて行う社会的課題の解決に資する事業／助成額：1協会あたり上限20万円
分野3 ユネスコスクールや学校内ユネスコ活動とユネスコ協会・クラブの連携強化に資する事業（例：ユネスコスクール対象活動発表会、学校教員向けユネスコスクール研修会等）／助成額：1協会あたり上限5万円

一助成を受けた協会・クラブ

小樽ユネスコ協会、札幌ユネスコ協会、岩手県ユネスコ協会連盟、横手ユネスコ協会、水沢ユネスコ協会、白石ユネスコ協会、新潟市ユネスコ協会、福島ユネスコ協会、秩父ユネスコ協会、蓮田・白岡地方ユネスコ協会、深谷地方ユネスコ協会、寄居地方ユネスコ協会、茨城県ユネスコ連絡協議会、茨城県西地方ユネスコ協会、北茨城ユネスコ協会、土浦ユネスコ協会、日立ユネスコ協会、水戸ユネスコ協会、千葉ユネスコ協会、市川市ユネスコ協会、柏ユネスコ協会、成田ユネスコ協会、富里ユネスコ協会、八街ユネスコ協会、四街道市ユネスコ協会、全国的青年連絡組織、渋谷ユネスコ協会、新宿ユネスコ協会、杉並ユネスコ協会、玉川大学ユネスコクラブ、目黒ユネスコ協会、磐田ユネスコ協会、静岡ユネスコ協会、沼津ユネスコ協会、富山ユネスコ協会、岐阜県ユネスコ協会、名古屋ユネスコ協会、ふくいユネスコ協会、長浜ユネスコ協会、舞鶴ユネスコ協会、大阪府ユネスコ連絡協議会、エリーニ・ユネスコ協会、斑鳩ユネスコ協会、奈良ユネスコ協会、宝塚ユネスコ協会、三田ユネスコ協会、津山ユネスコ協会、因島ユネスコ協会、下関ユネスコ協会、山口ユネスコ協会、徳島ユネスコ協会、高松ユネスコ協会、久留米ユネスコ協会、熊本ユネスコ協会

その他

- ・全国的青年連絡組織への活動助成
- ・青年外部研修補助制度

UNESCO等の実施する国際会議等や、国内外で外部団体が行う研修会への参加旅費等の一部を補助し、派遣する取組。本制度を活用して、3名の青年会員が「第35回開発教育全国研究集会」、「アドベンチャープログラミング講習会」などを受講した。

C) 第49回ユネスコ子どもキャンプ in 和歌山

7月30日(日)～8月2日(水)、和歌山県で、「第49回ユネスコ子どもキャンプ」を開催した。和歌山県内から集まった実行委員を中心に青年スタッフ41名と小学校4年生から中学校2年生までの子どもたち27名が参加した。

『わ(WA)!!～自然と深めるぼくらの絆～』というテーマのもと、古座川カヌーなど串本町の自然の素晴らしさを感じるプログラムや、トルコ記念館見学やトルコ料理づくりなど、串本町と縁の深いトルコについて学ぶプログラム、南紀熊野ジオパークについて楽し

みながら学ぶ運動会「ジオリンピック」などを通じて、ユネスコ活動の学習と理解を深めた。

日 時：2017年7月30日(日)～8月2日(水) (7月29日は青年スタッフ研修)

場 所：潮岬青少年の家(和歌山県東牟婁郡串本町)

主 催：日本ユネスコ協会連盟

共 催：和歌山県ユネスコ連絡協議会

後 援：文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、和歌山県、和歌山県教育委員会、南野熊野ジオパーク協議会ほか

協 力：和歌山県青少年育成協会、和歌山県スポーツ振興財団、大桑教育文化振興財団

D) 青年情報交換会

青年のユネスコ活動への参加促進、および青年事業を体系的に検討する「青年情報交換会」を青年評議員や全国的青年連絡組織代表を交えて実施した。

E) 寺子屋リーフレット制作プロジェクト

小・中・高等学校を対象に世界寺子屋運動を題材としたESD(持続可能な開発のための教育)の一環として、またアクティブ・ラーニングの普及を図ることを目的として、実施した。児童・生徒が非識字という世界的課題を知り、書きそんじハガキ回収による募金協力を呼びかけるリーフレットをデジタル機器を用いて制作し、自ら行動をおこす学習プロジェクトで、2017年度は全国から22校、約2,000人の児童生徒が参加した。公正な社会の実現と教育の大切さを学ぶ機会を得ると同時に多くの児童生徒が実際に書きそんじハガキ回収の活動を実践した。

F) 青少年参加型事業

日本ユネスコ協会連盟のビジョン、ミッションに基づき、ユネスコ活動への青少年の参画、リーダー養成を目指す新規事業の実施を検討するため、他団体が主催する類似事業に関する情報収集や教員・有識者へのヒアリング等を行い、新規高校生プログラム「ユネスコSDGsフォーラム」(仮称)を企画立案し、実施に向けた可能性を探った。

③「守ろう地球のたからもの」

持続可能な開発のための教育(ESD)の推進を目的に以下の事業を行った。

A) 世界遺産「白神山地」周辺地域での育樹活動

三菱UFJフィナンシャル・グループの協力を得て、2008年～2012年の5年間に植樹した約10万本の苗木の育樹活動を行った。

2017年7月1～2日、同グループ社員47人が育樹作業にボランティア参加した。

また、本事業の10周年記念として、白神山地のシンボルとして知られる「マザーツリー」の樹勢回復事業を支援した。

B) 第42回「みどりの絵コンクール」

三菱UFJフィナンシャル・グループの協力を得て、三菱UFJ環境財団の「みどりの絵コンクール」事業を共催した。応募総数25,026点の中から、最優秀賞9人、優秀賞34人、入選407人を選考し、2017年12月9日、東京都千代田区で最優秀賞の表彰式を実施した。

④ ユネスコスクールへの支援

A) ユネスコスクールプレート贈呈

当協会連盟から、ユネスコスクール新規登録校へのユネスコスクールプレートを地元ユネスコ協会の協力を得て46校に寄贈した。

B) 「第8回ESD国際交流プログラム」

株式会社三菱東京UFJ銀行の協力を得て、ユネスコスクールの高校生を対象とした「第8回ESD国際交流プログラム」(団長：市瀬智紀 仙台ユネスコ協会理事、宮城教育大学教員キャリア研究機構・機構長、宮城教育大学防災教育未来づくり総合研究センター長)を2018年3月25日～31日(24日は東京で事前研修)に実施した。

216名から選抜された12名を、昨年度に引き続きインドネシアに派遣し、ジョグジャカルタのESD優良事例の視察や現地ユネスコスクールとの交流を行った。参加者は多文化共生や、持続可能な開発について学びを深めた。

—参加者所属校—

市立札幌大通高等学校、盛岡中央高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校、神奈川県立有馬高等学校、山梨県立巨摩高等学校、長野県長野西高等学校、不二聖心女子学院高等学校、岐阜県立池田高等学校、愛知県立愛知商業高等学校、セントヨゼフ女子学園高等学校、関西創価高等学校、清心女子高等学校

C) 「第9期 ESDアシストプロジェクト」

株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループと三菱東京UFJ銀行の協力を得て、全国のユネスコスクール1034校を対象にESD学習を支援するプロジェクトで、今期は102校に対して、1校につき最大10万円の助成を行った。

—9期分野別応募状況(複数記述可)—

環境学習	国際理解	平和・人権	世界/地域 遺産	防災・減災	福祉・食育	その他
69	51	43	34	27	14	20

D) ESD教材の寄贈

株式会社三菱東京UFJ銀行の協力を得て、ESD教材「豊かな自然編」と「豊かな世界遺産編」を学校に寄贈する協働事業を行った。また、ESD絵本『サクラソウのひみつ』を保育園・幼稚園等に寄贈した。

⑤ 「三菱アジア子ども絵日記フェスタ」展示会の共催

アジアの非識字問題解決への意識啓発活動として1990年の国際識字年に開始され、三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟と協働し、現在では国際理解促進のため実施している。

2017年度は、アジア24の国・地域(含日本)の6歳～12歳の子どもが「伝えたいな、私の生活」をテーマに絵日記を描いたコンテストの応募から選考作業など、2018年7月の国際表彰式に向けた準備作業を行った。寄せられた作品総数は65,567点となった。

主 催：三菱広報委員会、アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟（AFUCA）、日本ユネスコ協会連盟

⑤ MSD サイエンス・スクール

MSD 株式会社と、「いのちと健康」をテーマに小学校5、6年生を主な対象にした「サイエンス・スクール」出前授業を協働で実施した。2017年度は、全国10校で授業を行い、子どもたちが、身体のメカニズム、薬の発見、科学者たちのルールを学ぶと同時に、軟膏づくりを体験し、生命や科学への興味を持つきっかけを得た。

—実施10校(実施順)—

南アルプス市立楡形西小学校、金沢市立明成小学校、秋田大学教育文化学部附属小学校
米子市立就将小学校、宮崎市立宮崎港小学校、藍住町立藍住北小学校、奈良市立椿井小学校
長崎市立桜町小学校、岐阜市立長森東小学校、熊谷市立長井小学校

—協力ユネスコ協会—

甲府ユネスコ協会、石川県ユネスコ協会、秋田ユネスコ協会、米子ユネスコ協会、
都城ユネスコ協会、徳島ユネスコ協会、奈良ユネスコ協会、岐阜県ユネスコ協会

⑦ カンボジアスタディツアー

公益財団法人かめのり財団との共催で8月5日～12日にかけて、「第4回高校生カンボジアスタディツアー」(団長：横山恵里子 新潟市ユネスコ協会事務局長)を実施した。ユネスコスクール校長または全国のユ協会長推薦を受けた学生を対象に、111名の応募の中から選抜された10名を現地に派遣し、ノンフォーマル教育を通じた貧困問題の解決や、世界遺産の修復を通じた文化の継承などさまざまな視点からの学びを提供した。

—参加者所属校—

群馬県立利根実業高等学校、千葉県立千葉東高等学校、千葉県立東葛飾高等学校、
東京学芸大学附属国際中等教育学校、東京都立三田高等学校、立教女学院高等学校、
福井南高等学校、名古屋大学教育学部附属高等学校、奈良県立奈良高等学校、岡山県
立岡山一宮高等学校

⑧ 日・中・韓青年文化フェスティバル

実施最終年の 2017 年度は、8 月 3 日～7 日に、日本、中国、韓国の高校生 36 名が東京に集まり、SDGs の目標 11「持続可能な都市とコミュニティ」をテーマに、英語で議論し、交流を深めた。

—日本の参加校—

新潟県立国際情報高等学校、石川県立金沢泉丘高等学校、岡山県立林野高等学校

(3) 組織の拡大とユネスコ活動の充実

① 新設ユネスコ協会の設立

2017年度は、普及促進活動により以下の3つのユネスコ協会が新設された。

衣川ユネスコ協会（岩手県）	2017年5月20日第515回理事会承認
徳之島ユネスコ協会（鹿児島県）	2017年6月17日第516回理事会承認
大阪北河内ユネスコ協会（大阪府）	2018年3月10日第521回理事会承認

② 地域ユネスコ協会の活動振興

地域ユネスコ協会の活動を振興する為に講師の派遣を行い、また、情報共有を目的に1ヵ月に1回、構成団体会員向けにユネスコ協会便を発送した。

③ 理事・評議員情報交換によるブロック内の情報共有を強化

2017年5月20日の評議員会の中で、ブロック毎に分かれ理事・評議員情報交換を実施し、ブロック内の情報共有を強化するとともに、ユネスコ活動全体の普及促進に関する議論も行った。

(4) 世界遺産・地域遺産活動

地域の文化・自然遺産を100年後の子どもたちに継承することを目的に次の活動を行った。

① 未来遺産運動

「プロジェクト未来遺産 2017」の募集と決定

21 団体からの応募について、西村幸夫委員長（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授）のもと、各分野の専門家による書類選考と現地調査を行った。その結果、12 月 4 日に開催した未来遺産委員会において、下記の 4 団体を選考し、登録を決定した。登録証伝達式は 2018 年 1 月より各地で実施した。

—「プロジェクト未来遺産 2017」プロジェクト名（団体名/所在地）—

1. おらほのながめづくり—『遠野物語』の文化的景観を守る—
（遠野市土淵町山口自治会／岩手県遠野市）
2. 福野夜高祭～「災厄からの復興の心」を引き継ぐプロジェクト～
（福野夜高祭連絡協議会／富山県南砺市）
3. 未来へつなぐ子ども達の健康と健やかな成長を～田井の子供神相撲～
（田井子供神相撲保存会／香川県高松市）

4. 子供と命をつなぐ ジッキョヌホーのトウギョの里プロジェクト
(NPO ファングル塾 (名水のむらジッキョ、自立・創造委員会) / 鹿児島県大島郡知名町)

特別協力：東日本旅客鉄道株式会社、住友ゴム工業株式会社

後援：読売新聞社、総務省、農林水産省、環境省、文化庁、観光庁、
日本ユネスコ国内委員会、公益社団法人 経済同友会

また、5年目を迎えた、住友ゴム工業株式会社との協働事業「チームエナセーブ未来プロジェクト」は、プロジェクト未来遺産に登録されている団体が行っている全国9ヵ所の活動に同社社員が参加し、環境保護活動を展開した。

② 世界遺産年報の発行

「世界遺産年報2018」を日本イコモス国内委員会、IUCN日本委員会の推薦を得て、専門家の監修のもと制作、発行した。『「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群』を特集。(発売元：講談社 / 価格：1,000円・税別)

(5) 海外との連携

① アジア太平洋ユネスコ協会クラブ連盟 (Asian Pacific Federation of UNESCO Clubs, Centers and Associations : AFUCA) の活動振興

・WFUCA 執行委員会・全国大会への参加

2017年7月13日および14日に行われたWFUCA執行委員会、並びに仙台で行われた全国大会に、AFUCAメンバーが参加し、ユネスコ協会・クラブ会員との交流を深めた。

② 世界ユネスコ協会クラブ連盟 (WFUCA) への協力

・第38回WFUCA執行委員会

2017年7月13日～14日にメトロポリタンエドモンドおよび国連大学において、第38回WFUCA執行委員会が開催され、海外から30名が参加した。会議では定款の改定とともにUNESCOから起案された新たな民間ユネスコ運動についての協力枠組について協議され、ボコバ事務局長(当時)あてに要望書が作成された。

14日に「オープンフォーラム」として、松浦晃一郎氏(元UNESCO事務局長)や小宮山宏氏(三菱総研理事長)による講演や各国の民間ユネスコ団体の代表者によるパネルディスカッションが開催された。参加者は仙台での全国大会にも参加するとともに、被災地である東松島を訪問した。

③ UNESCO との連携

・UNESCO 公式サポーター

2012年2月にUNESCOと締結した、日本国内での資金調達に関する協力協定に基づき、「UNESCO公式サポーター」企業である全日本空輸株式会社(ANA)より、マイレージ交換等によるご寄付や機内誌等での広報協力が行われた。

(6) 普及広報活動

民間ユネスコ活動の普及・広報を目的として以下の活動を行った。

① 機関誌「ユネスコ」の発行

会員機関誌「ユネスコ」を以下の通り発行し、会員間の情報交流を促進した。

機関誌「ユネスコ 2017 年 4 月号 vol. 1156」	2017 年 4 月 1 日発行
機関誌「ユネスコ 2017 年 7 月号 vol. 1157」	2017 年 7 月 1 日発行
機関誌「ユネスコ 2017 年 10 月号 vol. 1158」	2017 年 10 月 1 日発行
機関誌「ユネスコ 2018 年 1 月号 vol. 1159」	2018 年 1 月 1 日発行

② 日本ユネスコ協会連盟概要ブックレットの制作・配布

ユネスコ活動への賛同者を増やすために、募金や寄付に関する情報を分かりやすく伝えるパンフレット等を配布した。

③ ホームページの更新・管理運営

民間ユネスコ活動を広報する「活動ニュース」、「スタッフブログ」、「会員ページ」、「トピックス」など最新情報を随時更新した。フェイスブックの登録数は 3,415 人（2018 年 3 月 31 日現在）に増加した。

④ メールマガジン、リリース等による情報発信

メールマガジン登録者約 5,200 人に対し、通巻 228 号～239 号を発行した。また、各事業の実施に当たり、広く世間に周知を図るため、必要に応じてマスコミへのリリース配信を行った。

⑤ 広報特使との協働

久保純子広報特使（まなびゲーター）、UNESCO から任命されている二村英仁氏（UNESCO アーティストフォーピース）、わさお世界遺産活動特別大使“犬”（ワンバサダー）の協力を得て、ユネスコ運動の普及広報にご協力をいただいた。

⑥ 広報媒体の制作と活用

A) 映像

株式会社電通の広報協力により 2017 年度に新たに制作した、書きそんじハガキ・キャンペーンのための映像を、継続的にスカパーチャンネルや学校等で放映した。2018 年 2 月には、BS-朝日、BS-TBS 等で、同映像を放映し、ユネスコ世界寺子屋運動の周知を図った。

B) 広告出稿

・文藝春秋（2017 年 11 月号）紙上に日本ユネスコ協会連盟への遺贈寄付を呼びかける記事を掲載した。また、2018 年 3 月 9 日発売の同誌（2018 年 4 月号）に、ユネスコ協会就学支援奨学金の広告を掲載した。

- ・President（2017年12月25日発行）の定期購読者向け付録・遺贈特集紙に遺贈寄付を呼びかける広告を掲載した。
- ・日経MOOK 相続・事業継承 プロフェッショナル名鑑（2018年4月発売号）に遺贈寄付を呼び掛ける広告を掲載した。
- ・「マタニティマークとのタイアップ事業」として、地下鉄都営三田線の車両連結部分に貼るユネスコ世界寺子屋運動の広告ステッカーを制作した。（2018年6月より一編成（5カ所）に1年間掲載予定となっている。）

⑦日本ユネスコ協会連盟との共催・後援事業の申入れ承認

他団体（省庁・役所・学校含む）や企業からの共催・後援申請への承諾を行った。

⑧ 都市対抗野球大会

2017年12月15日に第88回都市対抗野球大会で優勝したトヨタ自動車に、スポーツを通じて平和のメッセージを発信する目的で、日本ユネスコ協会連盟賞を授与した。

2. 海外における平和構築活動

(1) 世界寺子屋支援活動

“持続可能な開発目標 (SDGs)” の目標達成のため、誰もが基本的人権としての基礎教育を受けられ、持続可能な地域の発展と平和な社会づくりに参画できる世界を目指した活動。開発途上国において教育機会を得られない人びとに対して、世界寺子屋運動を通じた教育支援活動を行った。また、世界寺子屋運動広報特使・久保純子氏や各種企業の協力を得て、国内の書きそんじハガキ回収や募金者を拡大するための広報活動を行った。

① アジア4カ国での事業実施

A) カンボジア (アンコール寺子屋プロジェクト)

カンボジア教育省、シェムリアップ州教育局等と連携し、州内の村で子ども、成人を対象とした識字教育、技術訓練及び収入向上プログラムを実施した。

2017年度は17軒目となるスラエン・スピアン寺子屋が完成した。識字クラスに493人、幼稚園クラスに239人が参加し、小学校を中途退学した子どもたちのための復学支援クラスでは216人が学んだ。また、復学支援クラスから中学校に進んだ子どもたち162人を対象に制服や学用品等を支給する「進学支援プログラム」を実施した。

収入向上活動ではマイクロクレジットおよび米の貸付を行い、合わせて290家庭が参加した。

自立運営に移行した寺子屋へのフォローと連携も継続し、運営委員への研修機会の提供、日本からのスタディツアー受け入れ支援、元学習者の「世界識字デーイベント」のための日本への招へいなどを行った。

B) アフガニスタン (アフガニスタン寺子屋プロジェクト)

アフガニスタン教育省識字局と連携し、カブール県、パルワン県、バーミヤン県において識字教育・技術訓練、収入向上事業を実施した。

識字事業により、657人が識字者となり、また技術訓練では革細工や裁縫などで377人が訓練を受けた。

また、カブール県ミルバチャコット郡に16軒目となる寺子屋が完成し、開所式典が実施された。

2018年3月、日本ユネスコ協会連盟カブール事務所が現地での識字やノンフォーマル教育活動を評価され、「ガニ大統領夫人の青年・成人識字コンテスト2018 (Bibi Gul Youth and Literacy Contest for Afghanistan 2018)」において第2位を獲得した。

C) ネパール (ルンビニ寺子屋プロジェクト)

世界遺産「ルンビニ」周辺の14地域とカトマンズ近郊の4地域を中心に識字教育・技術訓練、収入向上事業を実施した。

識字教育は、主としてルンビニにおいて2019年までに成人非識字者をゼロにする計画を立て、その4年目として約1,994人に4ヵ月間の識字後クラスを実施した。小学校クラスでは371人、幼稚園クラスでは42人が学んだ。

また、2015年4月のネパール地震で被災した寺子屋の再建を支援し、震源に位置するゴルカ郡のドゥワンコット寺子屋および東部のラメチャップ郡で2軒の寺子屋が完成し、開所

式典が行われた。

D) ミャンマー（ミャンマー小中学校退学者のための継続教育プロジェクト）

2017年度より、ミャンマー識字リソースセンター（MLRC）と連携し、教育支援プロジェクトを開始した。

ヤンゴン北部に位置するバゴ管区タナットピン、パウンデー、オクトウィン、ポカウンの4タウンシップの計29村にて、小中学校退学者や不就学の10歳～17歳の青少年を対象に、識字・算数・ライフスキルで構成された9カ月間の学習パッケージを提供した。各タウンシップで120名、合計480名の青少年が参加した。

本プロジェクトは、2017年度から3年間を予定し、並行して成人や少数民族向けの識字・職業訓練などの総合的なノンフォーマル教育のニーズ調査を行うこととなっている。

② 世界寺子屋運動促進活動

A) NHK 日本賞

2017年10月18日、世界の教育番組の向上を図ること目的としたNHKの教育コンテンツの国際コンクール「日本賞」授賞式で、「レッツ・プレイ」を企画したコロンビアのカントアレグレ・コーポレーションに対して、日本ユネスコ協会連盟を授与した。同賞は「その国の教育に役立ち、かつESD（持続可能な開発のための教育）に貢献する優れたテレビ番組の企画」を対象としている。

B) 書きそんじハガキ回収キャンペーン

書きそんじハガキ・キャンペーン2018では、全国161のユネスコ協会・クラブをはじめ、ユネスコスクール、企業、労働組合など多数の団体や個人が参加した。また、株式会社電通により、「書きそんじロー」の映像や回収グッズ作成の協力を得て、全国紙を含む、新聞など媒体への呼びかけを強化し、多くの協力を得ることができた。

さらに、世界寺子屋運動実施状況のフィードバック手法のアイデア提供をモニターに依頼する、「カンボジア寺子屋運動モニタリング・ツアー」を3月18日～22日まで実施。寺子屋運動支援先・世界遺産支援先を視察。札幌・富山・大分・熊本・鹿児島各協会がモニターとなった。結果を取りまとめ後、今後の寺子屋運動の広報活動に役立てていく予定となっている。

このほか、世界寺子屋運動名古屋実行委員会出席など、寺子屋運動促進活動を行った。

(2) 「一杯のスプーン」支援活動

世界寺子屋運動の支援先と連携し、貧しい人々への無償医療活動を支援した。

① アジア3カ国での事業実施

A) ネパール

世界寺子屋運動の支援地であるルンビニ地区において「国際仏教協会」の医院を通じて、12地域で低体重の子どもたち3,928人に栄養補助食品を配布した。

B) アフガニスタン

カブール市にある「サハ医療センター」への医療活動支援を行った。一般診療、内科、小児科、産婦人科、理学療法、感染症の予防接種などで年間でのべ 11 万人の患者を受け入れた。栄養失調と診断された子どもたち約 2,598 人には米、豆、砂糖などの栄養補助食品のセットを配布した。

C) カンボジア

カンボジアに安全な水を届ける「天空の杜プロジェクト」の最終報告書を 500 部作成し、協力企業をはじめとする関係者に配布した。

(3) 世界遺産・地域遺産活動

世界遺産、地域遺産を通して、国際理解を深め、自然や文化の多様性を広く一般に伝えるために以下の活動を行った。(地域遺産活動については p8)

① カンボジア世界遺産「シンハ像・ナーガ像」彫像修復プロジェクト

世界遺産「アンコール」にあるバイヨン寺院「シンハ像・ナーガ像」の修復プロジェクトおよび人材育成を現地 NGO (アンコール人材養成支援機構: JST) とともに日本政府アンコール遺跡救済チーム (JASA) の技術協力のもと実施した。

第 3 フェーズ (2016 年 4 月～2018 年 3 月) では、新たに加わった 2 名のカンボジア人技能員を含め、合計 9 名で実施した。技能員たちの作業効率も上がり、バイヨン寺院の外回廊・北側エリアにおいて、予定よりも早く修復作業が終了した。第 3 フェーズで蘇った彫像数は、ナーガ彫像: 18 体、シンハ彫像: 2 体、その他の欄干部材: 170 部 (架木 49 部材、斗束 61 部材、地覆 60 部材)。

また、シェムリアップ州内の寺子屋の復学支援クラスに通う子どもたち約 120 人が、課外授業としてバイヨン寺院を訪れ、アンコール遺跡に関する学習を深め、修復作業を行った。

② 世界遺産・地域遺産促進活動

UNESCO・ミャンマー政府が 2015 年 7 月から行ってきたバガン遺跡の保存プロジェクトに対し協力を行い、世界遺産の登録を目指す基盤が整えられた。

2018 年 3 月 6 日～9 日にかけて、バガンにて国際フォーラムと贈呈式が開催され、これまでのプロジェクトの総括ならびに終了式が行われた。日本ユネスコ協会連盟の野口昇副会長から、登録申請完了への祝意や支援の経緯が述べられ、宗教文化省大臣へ遺跡の保存に必要な機材が贈呈された。宗教文化省大臣をはじめ、関係者からは、当連盟の支援に対し、謝意が表明された。

また、活動への協力者を増強するための広報活動や、企業の社会貢献活動と連携し、世界遺産の保全活動を実施した。

3. 財務体質の強化

募金促進

① 募金者への報告と継続依頼の制作・発送

1月の年間領収書送付時に、募金者に支援していただいた事業実施状況を報告し、支援者からのメッセージを伝え、継続的な支援を得るよう働きかけた。

② 「ユネスコ活動レポート2016」の制作・発送

募金により実施した事業の成果を募金者に報告するために「ユネスコ活動レポート2016」を15,000部制作・配布した。

Ⅱ 組織

(2018年3月31日現在)

1. 理事 (28) (五十音順) (* 代表理事)

会長	大橋 洋治*	ANAホールディングス株式会社 相談役	非常勤<維持>
副会長	佐々木 毅	東京大学 名誉教授	非常勤<会推>
副会長	野口 昇	文京学院大学 名誉教授	非常勤<会推>
副会長	林 美紀子	杉並ユネスコ協会 顧問	非常勤<個人>
副会長	引地瑠美子	白石ユネスコ協会 会長	非常勤<個人>
理事長	鈴木 佑司*	法政大学 名誉教授	非常勤<会推>
理事	青木 保	I COM日本委員会 委員長	非常勤<賛助>
理事	朝倉 洋子	杉並ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	石川 郁香	柏ユネスコ協会 青年理事	非常勤<青年>
理事	池本 和人	萩ユネスコ協会 副会長	非常勤<構成>
理事	及川 幸彦	東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター 主幹研究員	非常勤<会推>
理事	大津 和子	北海道ユネスコ連絡協議会 会長	非常勤<個人>
理事	川松美智子	丸亀ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	笹井 宏益	玉川大学学術研究所高等教育開発センター 教授	非常勤<個人>
理事	佐藤 美樹	朝日生命保険相互会社 代表取締役会長	非常勤<維持>
理事	芝本 和己	和歌山ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	下枝 洋	名古屋ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	土谷 二郎	函館ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	中野 清史	長野ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	中村 孝也	仙台ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>
理事	名取 亮介	長野ユネスコ協会 理事	非常勤<青年>
理事	二瓶 和敏	二瓶総合法律事務所 弁護士	非常勤<個人>
理事	野村 朗子	株式会社電通 総務局社会貢献部 専任部長	非常勤<会推>
理事	橋村 隆介	熊本ユネスコ協会 副会長	非常勤<構成>
理事	牧 貞夫	エヌ・ティ・ティ都市開発株式会社 取締役相談役	非常勤<維持>
理事	間瀬 雅晴	一般社団法人日本の伝統を守る会 理事	非常勤<個人>
理事	松代 隆子	日本ユネスコ国内委員	非常勤<個人>
理事	吉崎 晴子	市川市ユネスコ協会 会長	非常勤<構成>

(注) <構成> : 構成団体会員代表、<賛助> : 賛助団体会員代表、<個人> : 個人会員代表、<維持> : 維持会員代表、<青年> : 青年代表、<会推> : 会長推薦

2. 監事 (3)

監事	小出 寛治	元NTTファイナンス株式会社 代表取締役社長	非常勤
監事	増田 正志	増田公認会計士事務所 公認会計士	非常勤
監事	永野 博	港ユネスコ協会 会長	非常勤

3. 顧問 (12)

糟谷勝一	加藤玲子	児島 仁	千 玄室
千葉晃弘	西村幸夫	濱中昭一郎	福原義春
松浦晃一郎	松田昌士	村田昌志	米田伸次

4. 評議員数

会員種別	人数	定員
構成団体会員	100人	100人以内
（うち青年代表）	（9人）	（9人以内）
（うち国内委員会委員）	（9人）	（9人以内）
賛助団体会員	4人	5人以内
個人会員	29人	30人以内
維持会員	12人	15人以内
計	145人	150人以内

5. 会員数

会員種別	2016年度末	減	増	2017年度末
構成団体会員	283	6	3	280
賛助団体会員	20	2	1	19
個人・終身個人会員	241	10	30	261
維持会員	109	13	5	101
計	653	31	39	661

6. 会員の異動

構成団体会員

<入会> 3

衣川ユネスコ協会	2017年5月20日第515回理事会承認
徳之島ユネスコ協会	2017年6月17日第516回理事会承認
大阪北河内ユネスコ協会	2018年3月10日第521回理事会承認

<退会> 6

気仙沼ユネスコ協会青年部	2017年5月20日第515回理事会承認
屋久島ユネスコ協会	2017年5月20日第515回理事会承認

天童ユネスコ協会	2017年11月11日第519回理事会承認
大牟田ユネスコ協会	2018年1月13日第520回理事会承認
府中ユネスコ協会	2018年3月10日第521回理事会承認
館山ユネスコ協会	2018年3月10日第521回理事会承認

<名称変更> 4

千葉県ユネスコ連絡協議会	2017年6月17日第516回理事会承認
ユネスコ京都クラブ	2017年11月11日第519回理事会承認
(特非)鎌倉ユネスコ協会	2017年11月11日第519回理事会承認
京都府ユネスコ連絡協議会	2018年3月10日第521回理事会承認

賛助団体会員

<入会> 1

一般社団法人日本の節句文化を継承する会	2017年5月20日第515回理事会承認
---------------------	----------------------

<退会> 2

帝塚山学院大学国際理解研究所	2017年5月20日第515回理事会承認
平和の文化を築く会	2017年9月9日第518回理事会承認

個人会員

<入会> 30

<退会> 10

維持会員

<入会> 5

株式会社クオリアート	2017年5月20日第515回理事会承認
特定非営利活動法人音楽は平和を運ぶ	2017年5月20日第515回理事会承認
ジェットスター・ジャパン株式会社	2017年5月20日第515回理事会承認
日本メディカルシステム株式会社	2017年5月20日第515回理事会承認
株式会社デイリースポーツ案内広告社	2018年3月10日第521回理事会承認

<退会> 13

富士通エフ・アイ・ピー株式会社	2017年5月20日第515回理事会承認
日本ハードス株式会社	2017年6月17日第516回理事会承認
群馬日野自動車株式会社	2017年9月9日第518回理事会承認
東邦ホールディングス株式会社	2017年9月9日第518回理事会承認
トッパン・フォームズ株式会社	2017年9月9日第518回理事会承認
株式会社バイリンガル・グループ	2017年9月9日第518回理事会承認
株式会社百五銀行	2017年9月9日第518回理事会承認
株式会社山梨中央銀行	2017年9月9日第518回理事会承認
カルビー株式会社	2017年11月11日第519回理事会承認

一般社団法人今日庵
株式会社千葉銀行
株式会社群馬銀行
北陸電力株式会社

2017年11月11日第519回理事会承認
2017年11月11日第519回理事会承認
2018年1月13日第520回理事会承認
2018年3月10日第521回理事会承認

7. 地域的なユネスコ活動の領域を代表する日本ユネスコ国内委員会委員(2018年3月末現在)

北海道	安達 久美子 (小樽ユネスコ協会事務局長)
東北	山田 卓郎 (白石ユネスコ協会副会長)
関東・甲信越	高尾 初江 (開倫ユネスコ協会事務局長)
	石井 尚子 (厚木ユネスコ協会副会長)
中部	今 みどり (大垣ユネスコ協会専務理事)
近畿	中西 正人 (箕面ユネスコ協会顧問)
中国	岡崎 環 (宮島ユネスコ協会副会長)
四国	野本 祥子 (丸亀ユネスコ協会理事)
九州	有里 泰徳 (都城ユネスコ協会事務局長)

Ⅲ 会 議

1. 総 会

第68回定時総会

日 時 2017年6月17日(土) 14:30～16:30

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 A室

議 長 会長 松田 昌士

議決権を有する社員の総数 657名

総議決権数 657個

出席社員数 329名(議決権行使書提出者を含む)

出席の社員が有する議決権数 329個

【決議事項】

第1号議案 2016年度事業報告書(案)および計算書類等(案)について

第2号議案 理事・監事及び評議員の選出について

第3号議案 「民間ユネスコ運動70周年ビジョン」の採択

第4号議案 総会運営規程の変更について

【報告事項】

1 2017年度事業計画書および予算書

2 その他

2. 理事会

第515回理事会

日 時 2017年5月20日(土) 12:30～15:00

場 所 東京都・大手町サンスカイルーム 27階 B室

議 長 会長 松田 昌士

出席者 26名(理事総数30名)

議 題

I. 第514回理事会議事要録の確認

II. 協議事項

1. 会員の入退会について

2. 部会からの報告

①70周年ビジョン部会

②組織運営部会

③青年活動部会

④定款・諸規程部会

3. 2016年度事業報告書(案)および2016年度計算書類等(案)について

①2016年度事業報告書(案)

②2016年度計算書類等(案)

4. 第68回定時総会について

5. その他

III. 報告事項

1. 2017年4月から5月までの事業報告および今後の日程(案)

2. 後援・共催事業
3. その他

第516回理事会

日 時 2017年6月17日(土) 13:15~14:00
場 所 大手町サンスカイルーム 27階 B室
議 長 会長 松田 昌士
出席者 26名 (理事総数30名)
議 題

- I. 第515回理事会議事要録(案)の承認
- II. 協議事項
 1. 会員の入退会について
 2. 部会からの報告
 - ①70周年ビジョン部会
 - ②組織運営部会
 - ③青年活動部会
 - ④定款・諸規程部会
 3. その他
- III. 報告事項
 1. 2017年6月の事業報告および今後の日程(案)
 2. 後援・共催事業
 3. その他

第517回理事会

日 時 2017年6月17日(土) 16:30~17:00
場 所 大手町サンスカイルーム 27階 B室
議 長 会長 大橋 洋治
出席者 26名 (理事総数30名)
議 題

- I. 協議事項
 1. 代表理事・会長の選任について
 2. 副会長、ならびに代表理事・理事長、副理事長の選任について
 3. 名誉会長、顧問の選任について
 4. その他

第518回理事会

日 時 2017年9月9日(土) 14:45~16:45
場 所 大手町サンスカイルーム 27階 B室
議 長 会長 大橋 洋治
出席者 25名 (理事総数28名)
議 題

- I. 第516回理事会議事要録(案)の承認、第517回理事会議事要録の確認

II. 協議事項

1. 会員の入退会について
2. 2017年度以降の基本方針(案)について
3. その他

III. 報告事項

1. 民間ユネスコ運動に関する UNESCO の動きについて
2. 2017年6月から9月までの事業報告および今後の日程(案)
3. 後援・共催事業
4. その他

第519回理事会

日 時 2017年11月11日(土) 12:30~14:30

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 B室

議 長 会長 大橋 洋治

出席者 21名 (理事総数28名)

議 題

I. 第518回理事会議事要録(案)の承認

II. 協議事項

1. 2017年度以降の基本方針(修正案)の承認
2. 会員の入退会について
3. その他

III. 報告事項

1. 「世界の記憶」に関する報告
2. 各部会準備会からの報告
 - ①財務部会 準備会
 - ②組織部会 準備会
 - ③世界寺子屋部会 準備会
 - ④青年部会 準備会
3. 地域代表青年代表理事会議準備会からの報告
4. 2017年度中間決算報告
5. 2017年10月から11月までの事業報告及び今後の日程(案)
6. デロイトトーマツコンサルティング合同会社による報告
7. 後援・共催事業
8. 遺贈の広報について
9. その他(2018年1月31日内閣府立入検査について)

第520回理事会

日 時 2018年1月13日(土) 12:30~14:40

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 B室

議 長 会長 大橋 洋治

出席者 25名 (理事総数28名)

I. 第519回理事会議事要録(案)の承認

II. 協議事項

1. 会員の入退会について
2. 2018年度事業計画及び予算の骨子(案)について
3. 情報公開規程(案)、個人情報保護規程(案)について
4. その他
 - ・組織活動委員会について
 - ・ユネスコ協会ESDパスポートWG設置について

III. 報告事項

1. 部会等の報告
 - ①財務部会
 - ②組織部会
 - ③青年部会
 - ④地域代表青年代表理事会議
2. 2017年11月から2018年1月までの事業報告および今後の日程(案)
3. 日本ユネスコ国内委員会委員(新任地域代表委員)の当連盟評議員就任について
4. 資金運用状況報告
5. デロイトトーマツ合同会社による報告
6. 後援・共催事業

第521回理事会

日時 2018年3月10日(土) 14:00~16:30
場所 大手町サンスカイルーム 27階 B室
議長 会長 大橋 洋治
出席者 21名(理事総数28名)

I. 第520回理事会議事要録(案)の承認

II. 協議事項

1. 会員の入退会について
2. 3ヵ年計画及び2018年度事業計画書・予算書(案)
 - ①2018-20年度 中期3ヵ年計画(案)
 - ②2018年度事業計画書(案)
 - ③2018年度予算書(案)
 - ④資金調達及び設備投資の見込み(案)

III. 報告事項

1. 委員会・部会等の報告
 - ①組織・活動委員会
 - ②財務部会
 - ③組織部会
 - ④世界寺子屋部会
 - ⑤青年部会
 - ⑥地域代表青年代表理事会議
 - ⑦その他

- ・広報関連担当理事
 - ・未来遺産関連担当理事
 - ・ESD パスポート WG 関連報告
2. 2018年1月から3月までの事業報告及び今後の日程(案)
 3. 後援・共催事業
 4. その他

3. 評議員会

第42回評議員会

日 時 2017年5月20日(土) 15:15～18:15
 場 所 大手町サンスカイルーム 27階 A室
 議 長 会長 松田 昌士

出席者	構成団体会員	45名
	維持会員	4名
	個人会員	20名
	賛助団体会員	2名
	青年代表	7名
	ユネスコ国内委員	6名
	上記以外の役員	5名
	出席者計	84名
	委任状	39通

議 題

1. 第41回評議員会議事要録(案)の承認
2. 2017年2月から5月までの事業報告及び今後の日程(案)
3. 組織・活動委員会からの報告
 - ①70周年ビジョン部会
 - ②組織運営部会
 - ③青年活動部会
 - ④定款・諸規程部会
4. 2017年度事業計画書および予算書について
5. その他
6. ご講演 国際連合広報センター 所長 根本かおる 様
 テーマ：持続可能な開発目標 (SDGs) : 「誰も置き去りにしない」で世界を変革する

第43回評議員会

日 時 2017年11月11日(土) 14:45～17:45
 場 所 大手町サンスカイルーム 27階 A室
 議 長 会長 大橋 洋治
 出席者 構成団体会員 49名

維持会員	5名
個人会員	18名
賛助団体会員	3名
青年代表	4名
ユネスコ国内委員	4名
上記以外の役員	1名
出席者計	83名
委任状	47通

議 題

1. 評議員会議事録署名人について
2. 評議員会の位置付け 並びに 組織・活動委員会等について
3. 2017年6月から11月までの事業報告及び今後の日程(案)
4. ご講演 外務省 国際文化交流審議官 宮川 学様
テーマ：「昨今のUNESCOをとりまく状況について」

第44回評議員会

日 時 2018年1月13日 (土) 15:00～17:00

場 所 大手町サンスカイルーム 27階 A室

議 長 会長 大橋 洋治

出席者	構成団体会員	43名
	維持会員	4名
	個人会員	20名
	賛助団体会員	2名
	青年代表	8名
	ユネスコ国内委員	6名
	上記以外の役員	1名
	出席者計	83名
	委任状	43通

国内委員会委員(新任地域代表委員)の当連盟評議員就任並びに評議員のご紹介

議 題

1. 2017年11月から2018年1月までの事業報告及び今後の日程(案)
2. 部会等の報告
 - ①財務部会
 - ②組織部会
 - ③世界寺子屋部会
 - ④青年部会
 - ⑤地域代表青年代表理事会議
3. 2018年度事業計画及び予算の骨子(案)
4. 書きそんじハガキ・キャンペーンについて
5. 高校生スタディツアー参加者プレゼンテーション

4. 各種委員会等

(1) 部会 2017年4月～第68回定時総会（2017年6月17日）

*肩書は第68回定時総会以前のもの 2016年度から継続する形で、理事会のもと、加藤玲子副会長を委員長として設置された「組織・活動委員会」のもとで、下記の4つの部会で、民間ユネスコ運動の発展にむけた審議を行った。

① 民間ユネスコ運動70周年に向けたビジョン部会

部会長：加藤玲子（副会長）

部会員：太田原弘（副会長）、林美紀子（副会長）、野口昇（理事長）、鈴木佑司（副理事長）、石田喬也（理事）、二瓶和敏（理事）、引地瑠美子（理事）、間瀬雅晴（理事）、松波孝之（理事）

内 容：2017年に民間ユネスコ運動70周年を迎えるにあたり、10年ごとに発表してきた運動方針を新たにまとめるため、その土台となる当連盟のビジョンおよびミッションについて協議した。

開催日：2016年7月28日、2016年10月17日、2016年11月7日、2016年12月5日、2017年2月6日 ※そのほか必要に応じて小部会を開催し、協議を行った。

② 組織運営部会

部会長：林美紀子（副会長）

部会員：相良憲昭（理事）、吉崎晴子（評議員）

内 容：会員の入退会、とりわけ新規に日本ユネスコ協会連盟の構成団体会員として加盟を検討している団体について、加盟に向けた運営体制や活動について協議を行った。また、ユネスコ協会の今後の発展に向けた組織の様々な課題について議論した。

開催日：2017年5月18日

③ 青年活動部会

部会長：松波孝之（理事）

部会員：鈴木佑司（副理事長）、小暮強志（評議員）、石川郁香（理事）

内 容：これまでの委員会の議論を引き継ぎ、青年リーダーの育成の視点にたつて、ユネスコ子どもキャンプや研修活動等の青年活動の効果的な実施の検討を2016年度から継続して行った。主な協議事項は下記のとおり。

1. 青年情報交換会の継続実施と国際協力系フェスタ出展支援
2. リーダー研修の視点も加えた「ユネスコ子どもキャンプ」の効果的な実施
3. 青年ユネスコ研修補助制度の普及
4. 新規高校生プログラムの検討

開催日：2017年5月21日

④ 定款・諸規程部会

部会長：二瓶和敏（理事）

部会員：間瀬雅晴（理事）、引地瑠美子（理事）、鈴木佑司（副理事長）

内 容：民間ユネスコ運動の現状に合わせて、定款および諸規程を修正・改正するための協議を行い、修正・改正案を作成した。主な修正・改正案を2017年6月の総会や各理事会に提示し、承認を得た。

(2) 部会等 第68回定時総会（2017年6月17日）以降

第519回理事会（2017年11月11日）で承認された、「組織・活動委員会」のもと設立された下記の4つの部会等で、民間ユネスコ運動のさらなる発展にむけた審議を行った。

① 組織・活動委員会

委員長：野口昇（副会長） 副委員長：林美紀子（副会長）

委 員：佐々木毅（副会長）、引地瑠美子（副会長兼組織部会長）、鈴木佑司（理事長）、佐藤美樹（理事兼財務部会長）中野清史（理事兼青年部会長）、笹井宏益（理事兼世界寺子屋部会長）、間瀬雅晴（理事兼財務部会副部会長）、二瓶和敏（理事）

内 容：2018年～2020年の3カ年計画(中期計画)の策定とそのために本員会のもとに設置された部会、並びに地域・青年代表理事会議、関連担当理事、ワーキンググループの全体調整を行うため、以下日程にて委員会を開催した。

開催日：2017年12月19日、2018年2月5日

② 財務部会

部会長：佐藤美樹（理事）

部会員：間瀬雅晴（理事）、牧貞夫（理事）、松代隆子（理事）、小暮強志（評議員）

内 容：ファンドレイジング及び財務体質について以下日程にて部会を開催した。

開催日：2017年10月17日、11月28日、12月8日、2018年1月16日、2月15日

③ 組織部会

部会長：引地瑠美子（副会長）

部会員：吉崎晴子（理事）、二瓶和敏（理事）、浅井孝司（評議員）

内 容：会員の入退会、とりわけ新規に日本ユネスコ協会連盟の構成団体会員として加盟を検討している団体について、加盟に向けた運営体制や活動について協議を行った。また、ユネスコ協会の今後の発展に向けた組織の様々な課題について議論した。

開催日：2017年10月26日、12月19日、2018年2月5日

④ 世界寺子屋部会

部会長：笹井宏益（理事）

部会員：朝倉洋子（理事）、大安喜一（評議員）

リソースパースン：長岡智寿子（日本女子大学）

内 容： 2020 年度以降の世界寺子屋運動中期計画の策定や 2019 年度実施「世界寺子屋運動 30 周年」企画立案を行った。また、2019 年の世界寺子屋運動 30 周年に向け、全国大会にて世界寺子屋運動を特集することや、映像の制作、海外のパートナー団体スタッフ等による PR 巡業などについて検討した。過去に実施したインド事業の評価調査を実施した。

開催日： 2017 年 11 月 1 日、2018 年 2 月 28 日

⑤ 青年部会

部会長：中野清史（理事）

部会員：松波孝之（評議員）、名取亮介（理事）、朝井理沙子（全国的青年連絡組織代表）

内 容：青少年活動活性化の方針と助成策の策定
構成団体、特に地方ユネスコ協会との連携の模索
全国的青年連絡組織の活性化のための施策の策定 など

開催日： 2017 年 11 月 29 日、2018 年 1 月 14 日、3 月 11 日

⑥ 地域代表・青年代表理事会議

議 長：池本和人（理事）

地域代表理事：朝倉洋子、川松美智子、芝本和己、下枝洋、土谷二郎、中野清史、中村孝也
橋村隆介、吉崎晴子

青年代表理事：石川郁香、名取亮介

内 容： 構成団体会員に関する現状の把握
運動振興に関する様々な課題への集中的な議論及び理事会への提案
今期は「会費・機関誌」「全国大会・プロ研」に関する今後のあり方について議論し、理事会に提案。

開催日：2017 年 11 月 11 日、2018 年 1 月 13 日、3 月 10 日

⑦ ユネスコ協会 ESD パスポート ワーキンググループ

リーダー： 大津和子（理事）

メンバー： 下枝洋（理事）、坂口一美（評議員）、望月浩明（評議員）

内 容： ESD グローバル・アクション・プログラム（GAP）のコミットメントとして UNESCO パリ本部で表明している本事業について、GAP が 2019 年に最終年を迎えるのを機に、出口戦略を踏まえ、2018 年度実施要項を策定した。

開 催 日： 2018 年 3 月 6 日

⑧ 広報関連担当理事との会合

広報関連担当に就任した松代隆子理事を中心に、日ユ協連の広報や企画業務内容について

のブリーフィングを行うと同時に、必要に応じてリソースパーソンを交えながら、日ユ協連の企画・広報の位置付け等について議論した。

開催日：2017年11月2日、12月20日、2018年1月17日、3月1日、3月27日

⑨ 未来遺産担当理事との会合

未来遺産運動担当に就任した牧貞夫理事と2017年11月以降、ミーティング等を行った。12月4日の未来遺産委員会へオブザーバーとしてご出席いただいた。また、3月11日に富山県南砺市で開催された「プロジェクト未来遺産2017」の伝達式に出席し、未来遺産運動の説明と祝辞を述べた。

開催日：2017年11月20日、12月20日、2018年2月15日

(3) 「世界遺産年報2018」アドバイザーグループ

開催日：2017年10月10日

委嘱事項：「世界遺産年報2018」出版に関わる専門的立場からの監修、助言

座長：西村幸夫(日ユ協連顧問、東京大学教授)

メンバー：岡田保良(日本イコモス国内委員会、国士舘大学教授、イラク古代文化研究所所長)、矢野和之(日本イコモス国内委員会事務局長、株式会社文化財保存計画協会代表取締役)、吉田正人(IUCN日本委員会会長、筑波大学大学院人間総合科学研究科教授)、米田久美子(財団法人自然環境研究センター研究主幹)

(4) 青少年ユネスコ活動助成審査会

開催日：2017年5月15日

委嘱事項：青少年ユネスコ活動助成の申請事業について、申請書類をもとに助成交付の可否及び助成交付金額の決定

審査委員長：野口昇(理事長)

委員：林美紀子(副会長)、鈴木佑司(副理事長)、松波孝之(理事)、小暮強志(評議員)

(5) 未来遺産委員会

開催日：2017年12月4日

委嘱事項：「プロジェクト未来遺産」の選考、調査協力、広報協力

委員長：西村幸夫(日ユ協連顧問、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授)

委員：齊藤裕嗣(東京文化財研究所無形文化遺産部客員研究員)、酒井暁子(横浜国立大学大学院環境情報研究院教授)、鈴木佑司(公益社団法人日本ユネスコ協会連盟理事長)、土屋誠(琉球大学名誉教授)、名越章浩(日本放送協会解説委

員)、西山厚 (帝塚山大学文学部文化創造学科教授)、西山徳明 (北海道大学観光学高等研究センター長)、原口隆則 (読売新聞東京本社社会部長)、日野正夫 (東日本旅客鉄道株式会社常務取締役)、北条敏明 (住友ゴム工業株式会社CSR推進室室長)、矢野和之 (株式会社文化財保存計画協会代表取締役)、鷺谷いづみ (中央大学人間総合理工学科教授)

※委員の役職等は、委員会当時もの

(6) デロイトトーマツコンサルティング合同会社 (DTC) によるプロボノ支援

期 間:2017年10月1日~2018年1月31日

内 容:非営利団体 (NPO や NGO) に対し、自らの専門性を無償で提供すること (プロボノ) を通じた社会貢献として、無償でコンサルタントとしての専門性の提供を受けた。70周年を機に策定したビジョン・ミッションに基づき、「組織基盤強化に向けた中期的な方向性の提案」をいただいた。第519回理事会では他のNGOとの比較を含め日ユ協連の立ち位置について調査報告を、また、第520回理事会では、ビジョン・ミッションの実現に向けた「事業運営の適正化」や「財務基盤の強化」について、より具体的な方向性について専門的知見をいただいた。

附属明細書

平成29年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成30年6月

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟